

令和2年(2020年)9月30日(水曜日)

湧水

三島駅南口東街区再開発

三島市の三島駅南口東街区に広域健康医療拠点やマンションを建設する再開発事業は、現計画の「推進」か「延期・見直し」かを問う住民投票条例の制定を求める市民団体が5206人分の署名を市選挙管理委員会に提出した。三島の未来を左右する巨大プロジェクトだけに賛否が分かれるのは当然だが、気になるのはむしろ無関心な市民の多さだ。

署名活動を実施したのは、現計画の延期・再検討を主張する「みんなで三島の未来を創る会」。8月17日～9月17日の1カ月間に、地方自治法が必要数と定める有権者の50分の1(1831人)を上回る署名を集めた。市選管の審査を経て条例制定を請求し、市議会で可決されれば住民投票が実施され、否決すれば手続きが終了することになる。

同会によると、署名活動を通じて再開発事業を「よく知らない」「分からない」との声が多く聞かれたという。「行政の説明不足」と批判する声もあるが、市民の側にも理解する姿勢がなければ「分からない」のは当然

正しく理解、市民の責任

だ。情報を正しく受け止め、適切な議論につなげたい。

争点の一つとなるのが、56億円を見込む市の負担額。そこには事業用地の駅前駐車場を市土地開発公社から買い戻すための24億円が含まれるが、これは再開発をしなくてもいずれば必要になるコストだ。全てひとくくりに「56億円」とし、市が支出する負担の大きさを論じるのは本当に適切だろうか。

地下水との関連も重要な問題だ。水都・三島にとって湧水は宝であり、高層マンションの基礎工事が影響を及ぼすことは許されない。市は専門家も交えた検討委員会で万全な地下水対策を取る考えだが、自然を相手に不測の事態もありうる。そこには厳しい視線が注がれるべきで、市民は決して無関心ではいられないはずだ。

今回の署名活動が住民投票につながるかは別にして、市民が考えて行動するのは大きな意味がある。一人一人が駅前開発に関心を持ち、正しい情報にしっかりと耳を傾ける。三島の未来に対して、今の市民が背負うべき責任だろう。

(三島支局・金野真仁)